

アドリアーナ・ルクヴルール あらすじ

開演準備で忙しい劇場に、パトロンであるブイオン公爵が太鼓持ちの僧院長と共にやって来る。劇団の監督ミショネは看板女優のアドリアーナを愛しているが、彼女はマウリツィオと恋仲である。ブイオン公爵は愛人の女優デュクロがマウリツィオと密会すると勘違いし、逢引き現場でパーティーをしようと皆を誘う。

実はマウリツィオは王妃との内密な交渉をブイオン公爵夫人に依頼しており、デュクロは使いをただけ。公爵夫人はマウリツィオを愛していたが、彼の心変わりに気付き、アドリアーナが彼に贈ったスマイルの花束に嫉妬する。公爵一行が到着し、公爵夫人は別室に隠れる。アドリアーナはマウリツィオが伯爵であることを知って驚くが、彼に別室の女性を逃がしてほしいと頼まれ、皆が外へ出た隙に手助けする。しかし暗闇の中でお互いが恋敵であることを直感する。

後日、公爵の夜会に現れたアドリアーナの声を聞いて、探していた恋敵が彼女だと気付いた公爵夫人はマウリツィオが決闘で大怪我をしたと嘘をつき、彼女の反応を確かめる。公爵夫人が逃げる際に落とした腕輪を持っていたアドリアーナも、その持ち主が公爵夫人であることを確かめ、火花を散らす。余興に「捨てられたアリアンナ」の独白を求めた公爵夫人だが、アドリアーナが選んだのは「不倫を告白するフェードラ」の台詞。侮辱された公爵夫人は復讐を誓う。

アドリアーナの誕生日に、劇団の仲間たちがお祝いに駆けつける。そこへ「マウリツィオより」と書かれた小箱が届き、かつて彼女が贈ったスマイルの花束が入っていた。その花には毒が仕込まれており、彼女の生気を奪う。やがてマウリツィオがやって来て求婚し、彼女も承諾するが、毒が回って意識が混濁し、栄光の舞台の台詞を叫ぶと息絶えてしまう。

指揮



杉原直基

演出



三浦安浩

CAST



南出薫

アドリアーナ
ルクヴルール



上本訓久

マウリツィオ



斉藤みゆき

ブイオン公爵夫人



葛西智一

ブイオン公爵

副指揮：塚田馨一

コレペティートル：藤原恭子 三輪栞 守屋亜樹

演出補：山田かおり

美術：高村由紀子

照明：吉田茂夫(ライズ プランナーズ ユニオン)

大道具：アクトコール

ヘア・メイク：藤原宏行

衣裳：賀集友子(アトリエカシュウ)

舞台監督：下沢要



三輪主恭

ミショネ



岡崎正治

ジャズイク僧院長



菅原弥生

ジュブノ



達本友季

ダンジュヴィル



石田晃大

ポアソン



桑島祐輔

キノー



河島雅生

家令



延与幸恵

小間使い

感染予防 のお願い

新型コロナウイルス感染状況によっては延期・中止の可能性がございます。

体調のすぐれない方はご来場をご遠慮ください。

マスクの着用、受付での検温と手指のアルコール消毒にご協力ください。

楽屋への往来、ご面会はお断りいたします。

予めチケット半券にお名前とお電話番号のご記入をお願いいたします。

来場者や出演者、スタッフが感染症を発症した場合は、保健所などの公的機関に情報提供を行います。